特集 県民だより500号

さがをもっとすきになってもらえるように！

Kenmindayori No.500 Special Thanks

▲昭和46年9月1日発行

県民だよりは皆さんに支えられ、
今月で全戸配布を始めて500号を迎えました。
今回は、100号・200号など、区切りの号に関わっていた県職員が集まって
当時の出来事や、制作の裏側について語り合いました。

杉町　現在、県民だよりを担当している杉町です。今日はよろしくお願いします。まずは、皆さんが広報に携わられた当時の印象的な出来事があれば教えてください。

川平　吉野ヶ里遺跡が発掘されたことですね。ヘリに乗って、上空からたくさんの来訪者の様子を写真撮影したことは思い出深いです。

大橋　当時はフィルムカメラなので、現像するまでどんな写真になっているか分からず、ドキドキでしたよね。私は「世界・焱（ほのお）の博覧会」を取材したことが印象的です。

太田　私はさが維新まつりの初開催が思い出深いですね。フィナーレの感動を伝えるため、表紙写真は特にこだわって、カメラマンと撮影場所の下見を重ね、さまざまな角度から何枚も撮影しました。それからサガン鳥栖のJ1昇格を特集したときは反響がすごかったです！

杉町　スポーツでいうと、今もSAGA2024国スポ・全障スポに向けて盛り上がっていますよね。では次に、心がけていたことはありますか？

大串　やわらかい文章を書くことです。県政を伝えるときは難しい言葉になりがちですが、「伝わること」がいちばん大事だと思うので、分かりやすい言葉で書くことを意識していました。

太田　私は皆さんからいただいた感想を、新しいコーナーの参考にしたり、紙面構成にも役立てていました。

川平　人の名前や固有名詞、電話番号などを間違いのないよう確認することかな。ベーシックな情報ほど大切だと思います。杉町さんが心がけていることは？

杉町　私は写真とタイトルを大事にしています。表情がよい写真を選んだり、皆さんに興味をもってもらえるようなタイトルを考えたり。やっぱり多くの人に読んでいただきたいので。

大串　「どうすれば手にとってもらえるのだろう？」と考えながらつくるところは、ずっと変わらないですね。

大橋　いろいろ考えて制作するからこそ、お便りが届くと本当にうれしいですよね。

大串　分かります！県民の皆さんの声で気づくこともありますし。

川平　今の県民だよりはスマホで読み取ってもらってサイトへ誘導したり、紙面だけにとどまらない情報発信を意識していますよね。

大橋　それに以前に比べると紙面全体がポップになっていると感じます。県の取り組みはもちろん、県民に焦点が当たっていて、より親しみやすいですね。

太田　「さががすき。」というタイトルのとおり、県民だよりは「佐賀県の魅力」を発信していく場。紙面を通して皆さんに「さががすき！」になってほしいです。

大串　これからも県が伝えたいことを分かりやすく、県民の皆さんが知りたいことを詳しくお知らせしていきたいですね。

杉町　今日は先輩方のお話を聞くことができて本当によかったです。これまでの歴史や想いを大切にしながら、より良い紙面になるよう今後もがんばります！

300号（平成17年12月号）
大串 美佳（おおぐし みか）
（現：広報広聴課 広報担当係長）

200号（平成9年8月号）
大橋 孝太郎（おおはし こうたろう）
（現：教育庁危機管理・広報総括監）

皆さんと県との架け橋に

佐賀県知事 山口 祥義（やまぐち よしのり）

県民の皆さんに佐賀の本質的な素晴らしさを伝えたい。
さらに、誇りに思っていただきたい。
「さががすき。」は、そんな想いで名づけました。
佐賀の持っている唯一無二な価値を、旬なネタを、
いかにみずみずしくお伝えするか。手に取る方々の
笑顔を思い浮かべながら、私自身、編集長になった気
持ちで一緒になって組み立てています。
「佐賀暮らしはさいこう！」そんな想いを皆さんと分かち合えるよう、気持ちの込もった県民だよりを通して、これからも佐賀を盛り上げていきます。

400号（平成26年4月号）
太田 初美（おおた はつみ）
（現：広報広聴課企画担当係長）

100号（平成元年4月号）
川平 勝己（かわひら かつみ）
（現：地域交流部副部長）

▲令和3年8月号

500号（本号）
杉町 美咲（すぎまち みさき）
（広報広聴課主事）